

## 砂地のきのこ その2 スナジホウライタケ

山本 充弘

砂地に生えるきのこで最もポピュラーなものは、スナジホウライタケかもしれない。会報 33 号で「砂地のきのこたち」を報告したが、そこには載せていないスナジホウライタケが館山市西岬の砂浜に群生するコウボウムギとそこに点在するハマニンニクの根元に束生しているのを2018年6月26日に多く見ることができた。掘り出してみると砂の中の茎のところにしっかりとしがみついている。実際は草の地下枯死部に生えると言われるが、あたかも草に寄生しているように見

える。傘もヒダも褐色であるが、キシメジ科ホウライタケ属らしく、孢子紋は白色である。孢子は  $11 \times 7 \mu\text{m}$  程度の楕円形でメルツァー試薬でアミロイドを呈する。

なぜ砂の中の茎にしがみついているのだろうか。自分が風で飛ばされないため？栄養源の枯れた草が風で飛ばされてしまう危険から逃れるため？ひょっとして草から水分をもらっていたりして？などいろいろな想像が膨らむ。



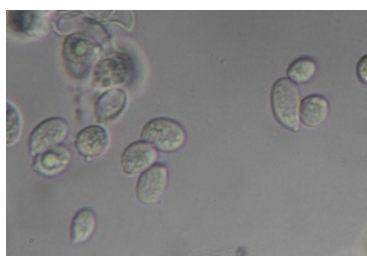
根元に束生



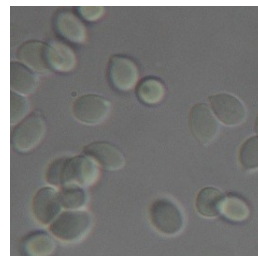
地下枯死部（茎の表面）にしがみついている



孢子紋



孢子



メルツァー試薬でアミロイド